

日本天文遺産「キトラ古墳天井壁画」の公開活用

キトラ古墳の石室の壁面には、青龍（東壁）、朱雀（南壁）、白虎（西壁）、玄武（北壁）の四神と、獣頭人身の十二支、そして天文図と日像・月像（天井）が描かれています。

2020年3月17日付で、国宝キトラ古墳壁画のうち天井「天文図」が、「キトラ古墳天井壁画」として日本天文遺産に認定されました。日本天文遺産とは、日本天文学会が日本の天文学や暦学にとって歴史的意義のある史跡・建造物、物品、文献を認定する制度で、2018年に創設されました。

天文図には、約360個の恒星による74座の中国星座のほか、内規、外規、黄道、赤道の四つの円が描かれています。中国大陸での観測結果をもとに作られたと推測されており、恒星や赤道等の位置を解析することで、原図の観測年代や観測地の緯度を求める研究もおこなわれています。

キトラ古墳天井壁画は、古代における天文学の水準のみならず、アジア大陸から日本への科学知識や文化の流入を知ることができるものであり、天文図は、科学的な分析に耐えうる本格的な星図として、天文学史上きわめて重要であると評価されました。

これを記念して、日本天文遺産認定記念ポストカードを作成し、「キトラ古墳壁画の公開（第17回）」の参加者に配布しました。天文図の星や日像・月像の金と銀のきらめきを箔押しで再現し、紙の質感にもこだわり、白い漆喰に天文図が描かれた、まさに当時の様子が見えるような仕上がりとなっています。手元に光る星々から古代に思いを馳せていただけたらと思います。（埋蔵文化財センター 吉田 万智）



星の輝きを再現した日本天文遺産認定ポストカード